

## カウンセリング特別演習における基本的カウンセリング技法の習得について 教育心理学専修・相模健人

### 1. 授業の概観

教育学部における専門教育科目（教育心理学専修）、カウンセリング特別演習を対象に学生の感想をもとに基本的カウンセリング技法を学ぶにあたり、どのような授業内容、指導が役立っているかを学生の進路と合わせて検討した。また DP（ディプロマ・ポリシー）との関連、授業の改善についても検討を行った。本授業の DP は「学校現場で生じているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる（思考・判断）」、「実践を省察し、自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた学習ができる（関心・意欲）」である（シラバスより）。

### 2. 授業評価法

①授業について…学校教育教員養成課程教育心理学専修生4年生に行われた「カウンセリング特別演習」（週1時間、通年）を対象とした。本授業ではカウンセリング実習を中心に、ビデオシステムを用いて実習生が相互に学習することを目指している。

②調査方法…2014年1月に受講生5名（平均年齢21.8歳）を対象として、授業評価アンケートとして配布、記入してもらった。調査項目は独自に作成した18問、自由記述とした。受講生の進路希望は臨床心理士指定大学院進学3名、教員2名であった。

③結果の整理…上記の回答すべてを対象として、KJ法（喜多川、1967）を用いて分析を行った。

### 3. 授業評価結果と考察

カウンセリング特別演習のKJ法の結果について以下に文章化を掲載する。「」は島、[]は学生の意見を表す。

まず島は大きく「進路との関連」、「初めてカウンセラーをしてみても」、「カウンセリング実践で学んだこと」、「授業内容、指導から学んだこと」、「1年を通じてでも短い」、「毎回楽しかったし、勉強になりました」、「DP（ディプロマ・ポリシー）との関連」、「授業の改善案」、「将来に向けて」に分かれた。順に見ていこう。

「進路との関連」の島はさらに「教師にはカウンセリングマインドが必要」、「カウンセラーの仕

事が第一志望」、「どのような進路になったとしても、カウンセリングにおける姿勢というのは役立つ」の島に分かれている。「教師にはカウンセリングマインドが必要」の島では受講動機として[クライアントの話を傾聴する姿勢は、教師が児童の話を傾聴することに繋がるからです]を挙げており、学生はカウンセリングを学ぶことは、教師の仕事に役立つと考えている。

一方、「カウンセラーの仕事が第一志望」の島では[大学院に進学するため、今後もカウンセリングの実習等が増えていくと思うが、人と向き合う基本的な姿勢を学ぶことができたので、落ち着いて取り組めるのではないかと]と今後に役立つと考えているようである。

これらの意見は「どのような進路になったとしても、カウンセリングにおける姿勢というのは役立つ」の島と関連しており、進路についてまだ決めかねている学生にとっても広くカウンセリングを学ぶことが役立つと考えていることが伺える。4年生対象の授業のため学生は、進路を考慮しての受講となっていることが考えられる。

この島と関連する「初めてカウンセラーをしてみても」の島は「クライアントに巻き込まれるような感覚」、「緊張して、頭が真っ白になりました」、「会話が詰まったらどうしようと不安」の島に分かれ、初めての体験で困難を感じていると考えられる。

これをサポートする「授業内容、指導から学んだこと」の島は「ビデオを見て学んだこと」、「クライアントを体験して」、「授業者の指導で役立ったこと」に分かれている。

授業初期や中盤で見せた「ビデオを見て学んだこと」の島はさらに「カウンセリングの流れを理解」、「面接の初めと終わりでのクライアントの方の声の大きさや姿勢の変化」、「比較的深刻な悩みにもこのカウンセリングが有効だ」に分かれており、面接の様子をビデオで学ぶことでカウンセリング技法をつかんでいっている。

また授業内での「クライアントを体験して」の島は「クライアントの立場にたつて、より分かりやすく説明する必要性を感じました」、「クライアントの立場でカウンセラーを見たときに感じたことを、カウンセラーの立場になったときに考える」に分かれており、学生がクライアントの立場を体

験することでカウンセラーに役立つことを学んでいると考えられる。

そして「授業者の指導で役立ったこと」の島については「自分でも気づいてないところにたくさん気づかせていただけた」、「授業者のカウンセリングを見て役立ったこと」、「授業者の指導のよかったこと」に分かれている。「自分でも気づいてないところにたくさん気づかせていただけた」の島では授業者の指摘により、次第に技法を身につけていっていると考えられ、授業者がカウンセラーとして面接に参加した「授業者のカウンセリングを見て役立ったこと」の島では授業者をモデルとして学んでいったことが伺える。「授業者の指導のよかったこと」の島では「良いところも同時に教えてくれるので、次回の面接に前向きに取り組むことができた」といったコンプリメントを中心とした指導であること「ビデオを見ながら、改善点や良かったところを指摘してくださったので、とてもわかりやすかった点もよかった」といった具体的な指導が役立ったことが分かる。こういった授業内容、指導から学生はカウンセリング技法を学んでいることが考えられる。

これと関連する「カウンセリング実践で学んだこと」の島は「実践の難しさを感じました」、「二人一組でカウンセリングを行うこと」、「技法を実践する中で学んだこと」、「一人でも今まで通り落ち着いて行うことができた」、「自分のカウンセリングしている様子を見返して」の島に分かれている。「実践の難しさを感じました」ではクライアントに合わせた展開に難しさを感じているようである。「技法を実践する中で学んだこと」の島では「アドバイスを貰うことだけがカウンセリングではないと思った」、「クライアントが考えている間、当たり前ですが、待つ」といったカウンセラーの姿勢に関するものから、技法に関することまでさまざまに学んでいることが伺える。さらに「自分のカウンセリングしている様子を見返して」の島では学生は自分たちがカウンセリングをしている様子をビデオで見返すことで「自分の姿を見て、改善すべき点は改善できたりしていい」と活用している。また、「二人一組でカウンセリングを行うこと」の島では不都合を感じる場面もありつつも、安心感も得ているようである。

こういった経験を積んで一人でカウンセリングを行ったときには「思ったよりも不安なく進めることができた。二人組のカウンセリングの回数をしっかり重ねられていたからではないかと思う」、「授業の初めに2人で行った時よりも少しはまともだったと思うので、少しは進歩したかなあとおもいました」といった「一人でも今まで通り落ち着

いて行うことができた」という島に関連していると考えられる。

このようにカウンセリングの演習を繰り返すことにより学生が基本的なカウンセリング技法を身につけていっていることと考えられる。

このように学んでいくために学生は「1年を通じても短いな」と通年で行うことで学べるのが重要であると感じている。

授業については「毎回楽しかったし、勉強になりました」の島ではカウンセリングの面白さ、やりがいも実感できているようである。

また「DP（ディプロマ・ポリシー）との関連」の島では「学校現場で生じる問題と大きく関連付けることができる」、「関心・意欲に関しては、授業のたびに感じられていた」の島に別れている。「学校現場で生じる問題と大きく関連付けることができる」の島では「実際の現場ではカウンセラーと教師や保護者がどのように連携が取れるのかを考えたり、子ども・親への対応の仕方考えることができたと思います」と学校で起こる問題への対応方法を学べたと感じている。「関心・意欲に関しては、授業のたびに感じられていた」の島では「今まで学んできた面接の技法や理論的なことを実際に行き、その都度省察をすることで学びを深めていくことができていいる面も関連していると感じた」と学生が強い関心を持ち、意欲を持って授業に取り組んでいる姿が考えられる。

これらと関連する「将来に向けて」の島は「将来子どもと接する際に役立てたい」といった進路に役立つと考える意見が多く見られた。

最後に「授業の改善案」については3つの意見で構成された。「先生が最後まで次何を聞くか、どういう展開にするかを指示して下さっていましたが、大体一回のケースで6回面接があったので、その中の一回でもいいので、自分たちでどのように聞いていくかを考える機会があってもよかったですのかなと思いました」という意見に関しては授業最終回に授業者がクライアント役を行うことで実現できたと考える。「自分がクライアントとしてカウンセリングを受けたときのことについては、どのような判断で面接を進めたのか、詳しく聞きたかった」、「毎回、新たな学びを得ることができていると思うが、相談する悩みに幅を持たせるために、我々受講者もTAさんのように、いじめの相談に来たクライアントや不登校の子をもつ母親など、クライアントを演じて面接を受ける機会を設けても良いと思った」といった意見については今後の検討事項としていきたい。